

スクールカウンセラー風便り

第 1 回
金屋光彦

1 このコーナーの趣旨

「スクールカウンセラーとは何か?」、「スクールカウンセラーは、いったい学校で何をやっているのだろうか……?」

オフィスなどで仕事をしておられる方々には、スクールカウンセラーの存在とその働きは、まだ知られていないところも多々あるでしょう。スクールカウンセラーが初めて学校に配置されたのは平成7年、文部科学省がスクールカウンセラー活用調査研究委託事業としてスタートしたのが始まりです。今年度で全国の公立中学校約1万校にほぼ配属されたところです。

このコーナーは、スクールカウンセラーの現実の姿を描写し、そのアイデンティティの核心に迫るのを狙いとしています。具体的には、さいたま市等でスクールカウンセラーとして働く私の、現場レポートでもあります。

2 スクールカウンセラーの位置と役割

中学校は、言うまでもなく教育の場です。それは、先生と生徒が織り成す営みで、主役はあくまで生徒と先生で、両者が繰り広げる中等教育がうまく展開されていくために、カウンセラーは黒子で関わっていきます。具体的には、先生と生徒との関係を良好に保ち、保護者の学校への信頼感を高め、先生や生徒の持つ資源や潜在力が十分に発揮され、教育が学校やその地域文化に即した形で展開されることに力を注ぎます。それがスクールカウンセラーの立場であり、それを誤って、カウンセラーが主役になったり、自分との関係そのものが目的化してしまうことは、避けねばなりません。

スクールカウンセラーは、常に縁の下の力持ちとして、“目立たずに仕事をして、それで効果抜群だった”、というのが、理想の仕事の仕方です。家に閉じこもっていた不登校の子がようやく教室へ戻ることができたというケースで、スクールカウンセラーが大きな役割を果たしたとしても、その成果は担任教師や生徒本人の努力として、位置づけていくのです。

「どこからともなく現われて、風のように去っていく」みたいな存在が、スクールカウンセラーの理想の在り方だと、私は思っています。

3 スクールカウンセラーは誰がなるのか?

スクールカウンセラーはどんな人がなっているのかというと、埼玉県の場合、①精神科医、②臨床心理士、③児童生徒の臨床心理に関して高度に専門的な知識及び経験を有し、学校教育法第1条に規定する大学の学長、副学長、教授、助教授または講師（常時勤務を有する者に限る）の職にある者の3つの中で、どれかに該当する人となっています。それが採用される際の受験資格ですが、実際には、大多数が臨床心理士の資格で採用になっているのが現状です。

4 具体的業務

具体的な業務としては以下の6つがあります。

- ① 生徒のカウンセリングを行う
- ② 先生のコンサルテーションを行う
- ③ 保護者のカウンセリングを行う
- ④ 他の機関（児童相談所や医療機関）との連携
- ⑤ 相談員のケーススーパービジョンを行う
- ⑥ 必要に応じて研修講師や講演を行う

さいたま市の場合、常時さわやか相談員がいて、生徒対応を行ってくれるので、①のケースは軽度の発達障害はじめ難しいケースを担当することになります。軽度発達障害がある児童生徒は、普通学級で教育を行う特別支援教育がスタートしていますが、それに係わることもスクールカウンセラーの大事な仕事です。学習障害(LD)やアスペルガー症候群とか注意欠陥多動性障害(ADHD)などは、少年事件などで話題になったりもしたので、お聞きになったことがあるでしょう。

著名な俳優トム・クルーズも、学習障害があったのは有名な話です。彼の場合は、“読む”という認知機能に難があり、「bとd」や「pとq」の区別がつかなかったり、文章を読む時は、行を飛ばしてしまったりしたそうです。そのために彼は、高校はLDのための特殊な学級で学んでいました。でも、彼は俳優になるという夢を持ち続け、台本を覚える時は、できるだけそのシーンを絵として思い浮かべ、ゆっくり読むようにして覚えてきたといえます。

次回からは、具体的なケースをご紹介しますと思っています。